

## スコットランド国立美術館 THE GREATS 美の巨匠たち

東京都美術館(上野公園) 2022.04.22~07.03

神戸市立博物館 22.07.16~09.25 北九州市立美術館 22.10.04~11.20

「スコットランド国立美術館」は、19世紀のスコットランド絵画や印象派の作品を収蔵する、上質で幅広い世界でも屈指の西洋絵画コレクションを有する美の殿堂として知られ、「国立美術館」を含めて「王立スコットランド・アカデミー」「スコットランド近代美術館」「スコットランド肖像画美術館」「ディーン美術館」の五つの施設に分かれて幅広い展示品を公開している。

今回の展覧会は、至宝の中から「ラファエル、エル・グレコ、ベラスケス、レンブラント、レイノルズ、ルノアール、モネ、ゴーガン」など、ルネサンス期から19世紀後半までの西洋絵画史を彩る巨匠たちの作品を展示している。

ディエゴ・ベラスケス 《卵を調理する老女》 油絵 1618年頃

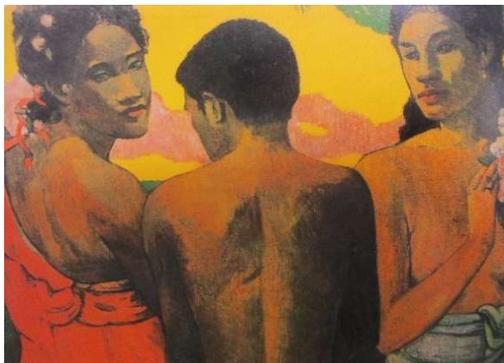


画伯19歳時の傑作で、テーブル近くに二人がいて、老女が卵を持っている様子の台所のスナップショットであるが、実際には少年の頭からメロンと火鉢がある。

卓上の静物は、老女の頭を中心とした円の弧の上に配されていて、極めて精密に計算された構図であることがよくわかる。

強い光は左側から女性を照らし、調理器具と調理している卵には光が、背景には暗い影を投じている。労働者階級の姿を描くことが多く見られ、彼の家族をモデルとして、光の明暗を使った技法(キアロスクーロ)が施されている。

ポール・ゴーガン 《三人のタヒチ人(おしゃべり)》 油彩/カンヴァス 1898年



作品の構図は、装飾的なものと日常ものが自然に結びついた大胆ものである。

果実を持ちながら振り向いた女性は、果実から肩へと動く線が、身を包む桃色のパオリとこたえあってつくるしなやかでふくよかな情感がまことに美しい。三人の人物の肉体をいろどる、緑と黄色と明るいかった色の微妙なニュアンス、おおらかだが肌のしっとりとした柔らかさも、引き締まった堅さなどが特質をなすものである。